

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 18

2013年10月発行

開館5周年記念講演会

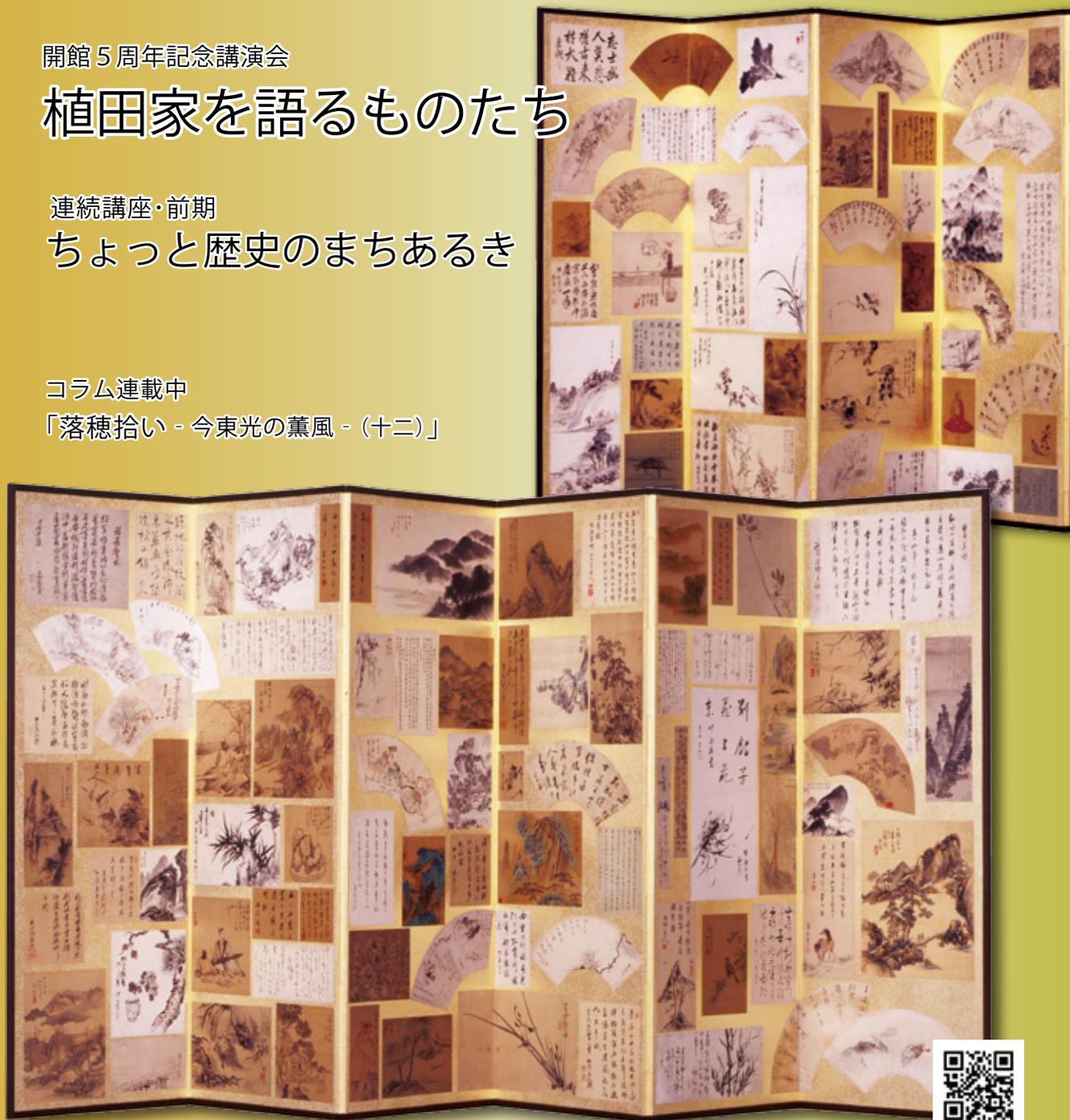
## 植田家を語るものたち

連続講座・前期

ちょっと歴史のまちあるき

コラム連載中

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十二)」



## 展示のご案内

安中新田会所跡 旧植田家住宅  
主催：NPO法人HICALI

開館5周年記念展示(後期)

# 植田家を語るものたち

～書画編～

植田家に眠る  
絵画・墨蹟を拝見!



2013年  
11月2日(土)～12月25日(水)

※期間中一部展示替えあり

休館日＝火曜日、11月6日(水)・25日(月)、12月18日(水)  
開館時間＝午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
【入館料】一般200円、高校生・大学生100円、中学生以下は無料  
◇11月3日(日)～11月17日(日)は「入館無料期間」

いそげ!!  
わ!!  
わ!!

八尾市指定文化財  
安中新田会所跡 旧植田家住宅  
〒581-0084 大阪府八尾市堀船1-1-25 <http://kyu-uedakejyutaku.jp/>

【交通案内】  
○JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より南へ徒歩約3分  
○近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス「久藤井寺原前行」  
より八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約6分  
※当施設には駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。



開館5周年記念展示(後期)

「植田家を語るものたち～書画類～」

2013年11月2日(土)～12月25日(水)

◇11/3(日)～11/17(日)は入館無料期間

※休館日はP15をご覧ください

次回 企画展「むかしの暮らし」(2014.1.5～3.2)

江戸・明治から昭和時代にかけて植田家が生活の中で用いた「ちょっと昔の道具」を展示し、往時の生活を振り返ります。

# Contents

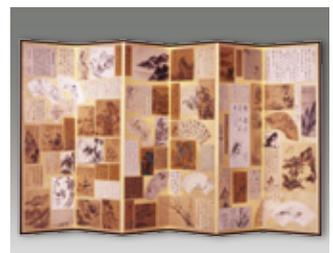
- 4 開館 5 周年記念講演会  
植田家を語るものたち  
(高橋隆博氏・吉田珠己氏)
- 6 講座  
中世八尾の遺跡
- 7 2013 年  
ボランティアガイド養成講座(第2期)
- 8 連続講座・前期  
ちょっと歴史のまちあるき(全3回)
- 10 研究の一と：ファイル6「お風呂」
- 11 こどもガイド体験講座
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記<sup>®</sup>
- 13 植松のまち・ひと — 第12回
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十二)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

## 「貼り交ぜ屏風」

植田家が独自の審美眼で蒐集したものや、あるいは植田家と関わりのある人物たちによる書画類およそ 140 点が、六曲一双の屏風に取り交ぜてあります。植田家の交流の広さや美意識をうかがい知ることができます。(※右の写真は右隻)



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

## 開館五周年記念講演会

### 「植田家を語るものたち」

安中新田会所跡 旧植田家住宅の開館五周年を記念して開催された企画展「植田さん家の名品・お宝」植田家を語るものたち」工芸品編」（『植田家だより17号』に記事掲載）は、陶磁器・金属器・漆器・茶道具などの工芸品を中心に、これまでの調査や企画展などの中から選りすぐりの優品を集めました。中でも、江戸時代中期に活躍した尾形乾山の作と伝えられる《色絵花文香炉》や有名な楽家十代旦入作の《黒楽茶碗》、そして千家十職（表・裏・武者小路の三千家に関わる十の職家）の一人で漆師の中村宗哲作の《棗》は、本展の目玉でした。

この五周年記念展示に関連し、八月四日（日）に、関西大学文学部教授・大阪都市遺産研究センター研究員の高橋隆博氏と八尾市文化財課職員の吉田珠己氏の両氏をお招きし、記念講演会を行いました。

はじめに、旧植田家住宅が一般公開されるまでの経緯や改修・複元工事の様子などについて吉田珠己氏にスライドを使いながら説明していただきました。植田家は土地・建物とともに生活道具や美術品・古文書・書籍など多くの資料を平成十七年に八尾市に寄贈され

## 開館五周年記念講演会

# 植田家を語るものたち

植田家の知られざる

魅力が満載！



2013年8月4日(日)



旧植田家について語る吉田氏



講演会の会場の様子

ました。八尾市はこれを受け、「みる・あそぶ・まなぶ・きく」ことのできる地域に根ざしたエコミュージアムをめざして、植田家の整備を行うこととなりました。

植田家の建物は耐震工事のため解体され、強化対策として一部、新しい木材が使われていますが、なるべく元の状態になるように柱などは当時のものを使用しながら行いました。その結果、植田家の建物はほとんど当時の姿を留めており、すばらしい昔の木造建築を見ることが出来ます。入口にあるレトロモダンな電灯や札隠し、そして建物内にある神棚もそのままの状態でのこされています。

吉田氏は、「植田家のような建物が現存するのはめずらしいので、今後、たくさんの人に来て、昔の建物や道具などをなつかしんでもらい、また若い人たちには新しい気持ちで見てください」と最後に伝えられました。

続いては、開館五周年記念展でも協力を頂いた大阪市遺産研究センターの高橋隆博氏に「植田家の『おたから』―旦入・乾山・宗哲―」と題して、ご講演をいただきました。

まず初めに、講演会の会場にもなっている「座敷」についてのお話を聞きました。座敷にある床の間・違い棚の形ができたのは足利義政が活躍した室町文明年間であり、また、障子は障子紙を介して内と外を分けるという日本独特の美意識、美の表現がみてとれるとい



植田家の「おたから」について語る高橋隆博氏

います。植田家はその伝統をきちんと踏まえているというこ

とです。

植田家は江戸時代後期から新田会所の支配人を務めており、お役人やお寺関係、その他の文化人

など様々な人たちが来訪したと伝えられています。その際、交流を親密にし、おもてなしをするために絶好のシチュエーションなのがお茶だったようです。それゆえ、茶道具はその人の人間性を表す大切な道具となり、質の高いものが求められます。

植田家には、楽家代々の茶碗をはじめ、中



村宗哲の棗などの茶道具のほか、茶道に必要な道具類などもこのされています。こうしたものから植田家の茶道具の質の高さが伺えるとい

ます。  
この後は、楽焼、



ホワイトボードを使っての解説

尾形乾山、中村宗哲のそれぞれに関する歴史や作品の特徴について、スライドの写真を見ながら詳しく説明していただきました。植田家の収蔵品についても解説があり、とても分かりやすく、それぞれの作品の魅力がより伝わるようでした。

最後に「これらの美術品を含めて一括して寄贈されるケースは全国的に珍しく、植田家代々の当主がこれらを大切に伝えてきた気概・気迫・気骨などのようなものを感じる事ができる。植田家の人びとに敬意を表したい。」と述べられ、講演会を締めくくりました。

(旧植田家住宅学芸員 谷口弘美)



楽家10代・旦入作《黒楽茶碗》

# 中世八尾の遺跡



講師：原田昌則氏（八尾市立埋蔵文化財調査センター）

九月一日（日）、旧植田家住宅では「中世八尾の遺跡」と題した講座が開かれました。講師は八尾市立埋蔵文化財調査センター学芸員の原田昌則さんです。八尾市内には旧植田家住宅を含む文化財関連施設が四カ所あり、互いに連携をとってイベントや講座を開催しています。今回の講座も、その連携の一つで、ふだんは「近世」を中心に講座やイベントを行なっている旧植田家住宅において「中世」のお話を聞くことができ、とても新鮮でした。

まず最初のお話は、平安時代後期の荘園の経営についてでした。何だか中学の歴史や社会の授業を思い出しますが、八尾市内にはどのような荘園が成立したのかについて詳細なデータを基に紹介されました。また平安時代後期以降の村々の成立や集落の形について、4つの分類に基づき説明がありました。各形式からは、当時そこで暮らしていた人々の生活や文化が一目でき、歴史の教科書の中だけの世界だと思っていた中世のくらしも、地元八尾市のこととあり、身近に捉えることができました。

続いて「くらしの遺物」として、これまでの発掘調査の結果から推定される八尾



市全体の様子を振り返り、個々の生活様式についても話されました。発掘と言えば「土器」を想像しますが、平安時代から室町時代にかけて発掘された土器類は実に様々で、こうした発見が発掘の醍醐味だと感じました。また中世の遺跡には、集落（村々）のほか、寺院もあり、現在につながる重要な遺跡も多く発見されています。特に旧植田家住宅周辺に関連の深い「龍華寺」については、文献の情報と照らしながら、今の位置と当時の位置についての見解が述べられ、とても興味深かったです。終わりに、生活の中にある信仰についてもお話しされ、出土した木簡や道具類から、今なお地方で見られる風習がこの時代から続いていることを示されました。

今回の講座は、中世がテーマでしたが、時代の違う人々の生活について改めて考えさせられました。八尾の知られざる一面も知ることができ、今後もっと時代を遡ってみたいという興味がわいてきました。

（旧植田家住宅学芸員 安藤亮）

## 第一回「ガイドダンス&植田家と新田開発」

今年もボランティアアガイド養成講座(第二期)が五月から八月にかけて開講されました。講座の第一回目は、ガイドダンスと受講生五名の自己紹介のあと、ボランティアアガイド一期生の方にお話をいただきました。もちろんその後、植田家と新田開発についての基本的な知識も学び、次回以降の講座に備えました。

ちなみに今年の養成講座は、受講生のうち三名が元小学校教諭ということで、学校からの見学が多い当施設にとっては大変心強いです。また今年には受講生の数も増えて充実しています。

## 第二回「旧植田家住宅の建造物」

第二回では、去年と同様、伝統民家研究家の平谷宗隆さんに講師をお願いし、主屋・土蔵をはじめ、旧植田家住宅の建造物について詳しくお話をいただきました。また、見学もかねて(あいにくの雨で外の見学は中止に)、植田家の主屋の中を歩き、建築についての専門的なお話や、建物の特徴について説明がありました。受講生の皆さんは熱心にメモを取られたり、建物の細部について質問をされるなど、豊富な知識や経験をもって帰ることができたのではないのでしょうか。



# 2013年 ボランティアアガイド養成講座 (第2期)



## 第三回「ちよっと昔の道具」

第三回は、学校園からの社会見学を想定して、小学三年生向けの「昔のくらし」をテーマにした講座です。実際にガイドをする時の順序や注意点を確認し、昔の道具(土蔵一常設展示)の話をたっぷりとしました。また土蔵を隅々まで見学した後、開催中の企画展「植田さん家の名品・お宝」を見てもらい、植田家の収蔵品の幅の広さを知っていただきました。

今回はよいよ最終回の「修了検定」ということで、検定について少しだけ説明を行ない、緊張感のうちに第三回の講座を終えました。

## 第四回「ボランティアアガイド修了検定」

長かった講座も最終回をむかえ、最後の仕上げとして「修了検定」を行ないました。この検定は植田家住宅スタッフの職員研修内でも実施しているもので、ガイドに必要な事項が存分に盛り込まれています。少し難しい問題もありましたが、緊迫した空気の中、受講生の皆さんは見事合格されました!

その後のガイド実践も終え、晴れて三名の方が新たにボランティアアガイドとして登録されました(諸事情により二名は辞退、講座は修了)。今後のご活躍を期待しています。

今年度・前期の連続講座は「ちよつと歴史のまちあるき」をテーマに、全三回の内容で「まちあるき」を楽しく学びました。

**第1回** 第一回は「住吉大社〜加賀屋新田会所をあるく」ということで、「住之江のまち案内ボランティアの会」の方々にガイドをしていただき、住吉大社（住吉区）から加賀屋新田会所（住之江区）までの道のりを、名所を辿りながら歩きました。

最初の住吉大社では、広い境内をゆつたりとまわり、建築の特徴や歴史についてのお話を聞くことができました。続く住吉公園は、何といても灯籠と調和した公園の風景がとて印象的でした。また、公園から少し先の場所にある巨大な高燈籠では、外から見るだけでなく、特別に中も見学させてもらいました。ここでは住吉の水害の歴史についても学びました。

ここからは、まちあるきの本番。植田家と同じ会所である加賀屋新田会所を目指して歩きました。途中、寄り道をしながら約四十分ほど到着。この場所でもたくさんガイドをしてもらい、まちの魅力と歴史が感じられる「まちあるき」となりました。

（安藤亮）

**第2回** 連続講座の

第二回は、「まちあるきの楽しみ方」というタイトルで、お馴染みのマップ師・北村茂章さんに講師をして頂きました。今回は八月に開講のため、炎天下で歩くのは危険ということで、旧植田家住宅の講座室での講座となりました。



この講座では、これまで様々な場所を歩かれた北村さんのお話とスライドを通して、まちあるきのポイントについて教えて頂きました。また、本講座の最終目標は、「誰でもまちあるきのマップが作れるようになる」こと。ということで、今回は特別にマップ作りの秘密も公開されました。

まちあるきをより楽しむためには、「よく見る」（観察する）こと、絵でも文字でも「書き留める」（記録すること、そして「知る」（調査する））ことが重要で、それらを基にマップが作られていきます。魅力あるマップはこうした積み重ねによって完成されていくのだなあと、とても感心させられるお話でした。さて皆さんも「まちあるき」に出かけてみませんか。

（安藤亮）

**第3回** 九月二十八日（土）は、「八尾寺内町をあるく」を行ないました。今回は、講師に八尾市文化財課の消さんをお招きし、八尾寺内町周辺を案内してもらいました。八尾寺内町は、江戸時代、八尾の大本願寺（八尾御坊）を中心に形成された環濠集落で、現在の本町地区の辺りになります。

当日は天候にも恵まれ、たくさんの人に参加していただきました。八尾市役所をスタートし、八尾寺内町周辺にある栗栖神社（八尾神社）、常光寺、八尾天満宮、大信寺、慈願寺、長柄神社などの寺院や、徳山藩出身の国学者の飯田忠彦旧棲地跡、幕末の国学者・歌人で、のちに勤皇志士になった伴林光平の碑などをめぐりました。また、江戸時代中期の私塾である環山楼では、内部の見学をさせてもらい、そこで消さんによるミニ講座も聞くことができました。

その他にも、かつて寺内町の周囲に巡らされていた環濠の名残と思われる水路や、レトロなレンガ倉庫、常夜灯など、みどころがたくさんありました。

（谷口弘美）



第2回【まちあるきの楽しみ方】



加賀屋新田会所跡に到着



そびえる高燈籠



案内ボランティアの方々



住吉公園を散策



見所が満載の住吉大社

第3回【八尾寺内町をあるく】



マップ作りの秘密を大公開!?



熱心に話を聞く参加者



盛り上がる質疑応答の様子



八尾神社



常光寺



長柄神社



伴林光平の碑



大信寺



環山楼



慈願寺

お楽しみがいろいろの  
八尾寺内町!

# 研究 のーと

Investigation  
Note



## ファイル6 「お風呂」

旧植田家住宅 学芸員

谷口 弘美



昭和初期の増築の際につくられた来客用の浴室

最近、まちなかで昔ながらの銭湯を見かけなくなったように思う。旧植田家住宅の近所の銭湯も数年前に廃業した。戦後、人口の増加とともに都市部に多くつくられた銭湯は、高度経済成長期以降、風呂付住宅やスーパー銭湯※の登場により、年々、減少しているという。「八尾市お風呂屋さんマップ」(二〇一二年八月、八尾浴場組合発行)によると、現在、八尾市内には十六軒の銭湯があるそうだ。今後さらにその数は減っていくかもしれない。

さて、今回は植田家の「お風呂」についてみてみたい。植田家の座敷西側には昭和初期の増築の際に設けられた「来客用」の浴室がある。浴室にはガス釜付きの木製の浴槽がある。ガス風呂が一般に普及したのは戦後のことで、植田家では早くからガス風呂を取り入れていたことが伺える。また、浴室と脱衣所を仕切るガラス戸には細かい文様や上部の木枠に菊・竹などの細工が施されている。この浴室は、当時としてはかなりモダンな造りであったと思われる。

では、植田家の人たちはどのようなお風呂を使用していたのだろうか。普段使い用の浴室は現存していないが、植田家にのこされている明治三十三年の建物実測図によると、

明治期には浴室が三方所に設置されている。

また植田家には、江戸時代後期に江戸を中心に広まった家庭用の据え風呂、通称「鉄砲風呂」が現存する(土蔵一展示中)。鉄砲風呂は楕円形の大形の桶に鋳物や銅でつくった筒形の風呂釜を入れたもので、燃料の炭や薪を焚いて用いる。植田家にのこる鉄砲風呂は、昭和初期、東京の田園調布にある谷島風呂店で製作されたものと分かり、植田家の人びとがわざわざ取り寄せたものと考えられる。

以上のことから、植田家では早くから風呂が設置され、新しいものをいち早く取り入れていたことがわかる。お風呂以外でも、こうした植田家の趣向が見られるものがまだまだたくさんある。今後とも紹介していきたい。

※スーパー銭湯

大浴場・露天風呂・サウナなど各浴室と休憩場・娯楽施設・外食施設などを併設した大規模な銭湯。

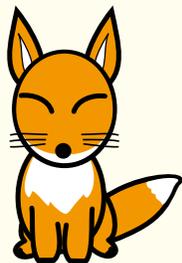


植田家の鉄砲風呂

# こどもガイド

たいけんこうざ

## 体験講座



2013年7月22日(月)



### 一・土蔵をガイドしよう

旧植田家住宅では、学芸員、スタッフ、ボランティアによるガイドのほか、植田家に来る子どもたちに建物を案内してもらう「こどもガイド」の体験講座を実施しています。その講座が夏休み開始直後の七月二十二日(月)に行なわれました。参加してくれた二人の五年生には今回、土蔵一のガイドに挑戦してもらいました。昔の道具の種類や使い方など、熱心に耳を傾け、質問にも積極的に答えてくれる二人の参加者。道具に描かれている植田家の家紋の話にも興味を持った様子でした。また、普段入れない土蔵の奥に入ってみたり、これで植田家の土蔵の案内は完璧!? こどもガイドとして、少し照れながらも、この日お手伝いに参加して下さったボランティアさんを案内しました。



熱心に話を聞き、質問にも答える二人



### 二・昔の遊びを体験しよう

続いてはお楽しみみの「昔のくらし体験」。はたきを作って掃除をしたり、障子を張り替えるなど、現代の子どもたちが生活の中でほとんど経験することがなくなっただけを体験しながら学びます。

今回のテーマは「遊び」。それも現代の大人でもほとんどしたことがない江戸時代の遊び「投扇興とうせんきょう」をしました。遊び方は、扇をひよいと投げて、台の上の的(蝶)に当てるだけ。この遊びの面白い点は、当たった時の状態によって点数が変わるところ。スタッフも子どもたちと一緒に大盛り上がり。終了後の二人の感想も「投扇興が面白かった!」と、前半のガイド体験も忘れてしまうほどでした。次回は十二月の予定です(内容は未定)。



対戦で大盛り上がり!

よ〜く狙って…



# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.18

## 夏野菜の収穫！



### 【異常気象につき・・・】

とにかく暑すぎた今年の夏。体調を崩された方も多かったのではないだろうか。作物も同じなのか、毎年育てている夏野菜は、管理さえきっちりしていれば、ぐんぐんツルが伸び、たくさんの実をつけるが、今回はかなり苦戦した。強いはずの勝間南瓜も、実こそできたものの、ほとんどが小ぶりで、通常の大きさのものは、数えるほどしかなかった。同じく黒門越瓜も妙なひょうたん型の小さ



いものばかり。河内木綿に関しては、植え始めて以来の最悪な状態だ。十月に入った現在も、一時の異常さこそないが、厳しい残暑が続いている。九月の中頃に種をまき、まだ小さな苗（田辺大根・天王寺蕪・金時人参）は、日差しがきつすぎるせいか、全く元気がない。不織布をかけて直射日光は避けているものの、明らかに普段と違う。何とか「納豆水パウワ」(栽培日記15号を参照)にあやかり、今度こそ、田辺大根フェスタの最高賞、念願の「これぞ田辺大根DE賞」を頂けるよう、毎日のネバネバ作戦に勤しもうと思う。

### 【ぎょえ〜!!】

初のトウモロコシは反対に、この暑さが良かったのか、順調に育った。ただ雄花（茎の先端の穂）が始めた頃に発生する天敵（アワノメイガ）の被害に多少遭った。基本、農薬は使わないので、人工授粉後すぐに雄花を切り落とした。実も毎日大きくなり、もうすぐ嬉しい甘〜いスイートコーンの収穫…となるはずだったが、思いもよらない事態に。ある日の夕方、畑の様子を見にいくと丸々と太ったトウモロコシに一匹のカナブンが頭をつつこんでいた。虫が大の苦手な私の代わ

りに、他のスタッフが追い払おうと少しトウモロコシの皮をめくると、出てくる、出てくる、大量のカナブン!!次から次へとウニョウニョ出てくるその姿は、かなりショッキングなものであった。結局十匹以上が一本のコーンの中に入り込んでいた。

こうして知らないうちに、そのほとんどがカナブンたちのエサになっていて、無事だったのは、わずか七、八本。また来年トウモロコシを植えるか?と聞かれたら、あの鳥肌ものの映像を見てしまったスタッフたちの答えは、きつと「NO!」であろう。

(補足) 子どもたちが無事なコーンを収穫し、



皮を剥いていると、また中から何匹か飛び出してきた。偶然それに当たった虫の苦手な女の子、絶叫!  
…やはり、もうトウモロコシ栽培は絶対にやめようと心に誓った。



※画像(虫)はイメージです。

◇続・『植松史』聞き取りプロジェクト

「植松のまち・ひと」の第七回（植田家だより13号）でお伝えした『植松史』聞き取りプロジェクトは、現在も進行中で、ようやく聞き取りが終わり、編集作業に入った。聞き取りにご協力いただいた方々からは、貴重なお話と写真などの資料も提供して頂き、内容としては非常にバラエティに富んでいる。

とりわけ、同コーナー第二回（『同6号』）でも紹介した「渋川神社」にまつわるエピソードが多く、当時の子どもたちの遊び場になっていたことや、草木が生い茂っており、しかも夜は真っ暗だったため、当時は

### 「植松の歴史を発掘し保存する

### 『植松史』プロジェクト」

近寄り難い場所であったことなどが分かった。また昔も今もお祭りに活気があり、このことは植松の自慢と言っても良いのではないかと思う。その他にも民間信仰やお参りの話など、どのエピソードも興味深いものばかりで、なかなか話は尽きない。

一人ひとりが歩んできた人生は違っても、それぞれの事柄をひとつに重ね合わせると、共通する多くのことがあり、一本の歴史が浮かび上がってくる。一部の地域であるが、その歴史を保存した『植松史』を、広くどの世代の人たちにも伝えることができればと想う。

完成は来年の四月頃を予定。引き続き、その完成を心待ちにしたい。

## マンジーくん

安富士 暁



お祭りの風景



昭和当時の渋川神社



国鉄八尾駅と汽車



現在の渋川神社

よみがえる  
植松の記憶！



昔は遊び場だった！

## 落穂拾い

## — 今東光の董風 — (十二)

文・伊東健

今東光が、支倉六右衛門常長を描いた小説『はげくら』(一九六一(昭和三十六)年四月二十五日中央公論発行)の続きです。

密かに建造された船が、船出していく場面には、華やかな見送りはありませんでした。常長の使節一行に与えられた使命が、公にできるものではなかったからです。

小説では、一六一三(慶長十八)年九月十五日、月ノ浦の浜辺から出帆する船内に乗り込んでいたのは、常長の指揮下に入る一行、スペイン人のビスカイノ一派、そしてキリシタン宣教師であるソテロの思惑の異なる三者三様に利害を持った人々でした。

藩主・伊達政宗がこの世紀の大航海に託した大命とは何かを、東光は常長の解釈を通じて以下のように語ります。

御屋形は楚<sup>ソウ</sup>天呂<sup>テウロ</sup>に対しては

「仙台には小さな教会堂が二つしかない。

もっと大きな会堂を建て、宣教師も数多

ローマから招きたい。(中略)

ビスカイノに対しては御屋形は

「エスパニヤとの貿易を是非とも開きたい

と存ずる」(中略)

御屋形は日本人に対しては海外を視察

せしめ、その強弱を考え、以て征服する

のだと揚言した。藩士等は表には貿易を

装い、内には凶南<sup>トナン</sup>の<sup>と</sup>大志を蔵するものと

して勇躍した。(中略)

一体、御屋形の本心は何所にあったの

だろうか。六右衛門は

(歴史が決定することじゃ)

と意に介しなかった。(後略)

乗船者が一丸となれない大航海は、困難を

極めますが、太平洋からメキシコへ、さらに

大西洋を横断してスペインのマドリッドに

到着します。スペイン国王のフェリペ二世と

の間での通商問題が難航した末に、イタリア

のローマへと向う中で、小説の視点は、常長

に随行している今泉令史と佐藤大四郎の異国

の地での恋や冒険を横軸に据えながら、国家

間の政治と宗教問題に翻弄され、再度スペ

インに戻らなければならなくなる一行の姿

で終幕を迎えます。日本でのキリシタン迫害

の報が舞い込み、常長の落胆と暗澹<sup>あんたん</sup>たる将来

を予見させつつも、人種や時代を越えて、

たくましく見果てぬ夢を追う佐藤大四郎の

姿に希望を託すラストです。

引用文中で、東光は常長一行が宿してい

た精神を、凶南<sup>トナン</sup>の<sup>と</sup>大志と表現しています。

凶南とは、「莊子」からの言葉ですが、想

像上の鳥である鵬<sup>ほう</sup>が翼を広げるように、大

事業を企てるという意味です。歴史の記憶

に刻まれた慶長遣欧使節を率いた支倉常長

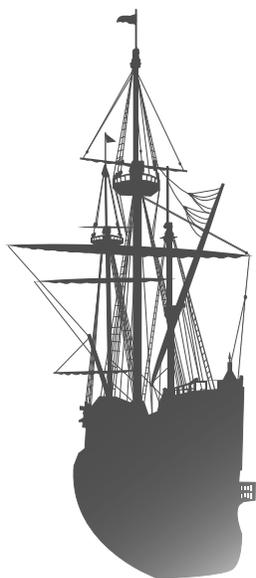
の墓に詣でたのは、大正末年だったと同書

の跋文<sup>ぼつぶん</sup>に記す東光は、二十代の時に書きた

いと念願した人物の物語を、六十代で完成

させたこととなります。まさに、生涯小説

家であった今東光の一大事業でした。



[2013年11月~2014年1月]

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」  
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

### 展示

◎11月2日(土)~12月25日(水)  
開館5周年記念展(後期)  
「植田家を語るものたち~書画編~」  
※11月23日(土) ギャラリートーク

2014年

◎1月5日(日)~3月2日(日)  
企画展「むかしの暮らし」  
※同時開催「施設周辺写生作品展示」(~1/31)

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 企画

◎11月 4日(月) 講座「文化財の保存修復」(講師:平田正和氏)  
17日(日) 旧家でJAZZII  
28日(木) 旧家で楽しむ食事会  
30日(土) 大和川を歩く~ぶらり長瀬川 Part3~

◎12月 8日(日) 連続講座2-1「ミルシルキスル」  
14日(土) こどもガイド体験講座2  
21日(土) おもちつき大会

2014年

◎1月 12日(日) 連続講座2-2「ミルシルキスル」  
19日(日) こどものためのお茶会  
26日(日) 旧家で楽しむ落語会

(詳しくはお問い合わせください)

## 休館日カレンダー

■ = 休館日

※11/3~11/17は入館無料期間

11 November

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 December

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2014 / 1 January

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

●開館時間:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)  
高校・大学生100円(団体50円)  
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者  
および介助者は無料

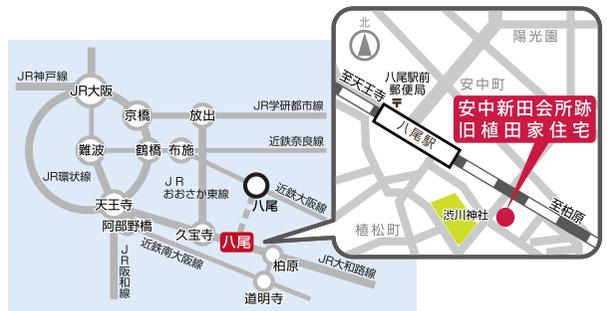
●お問い合わせ

〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大和線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約6分



# これからの社会に必要な「しくみ」と「人の居場所」をつくる活動を行っています。

私たちは「社会が豊かになることによって、私たちも豊かになれる」という信念のもと、「新しいキャリア観をつくる」「中小企業のソーシャル化」「生物多様性」「地域を元気にする」をキーワードに、これからの社会に必要な「しくみ」と「人の居場所」をつくる活動を行っています。本業を通じた社会貢献をお考えの企業さま、持続可能な社会をつくるために何かしたいとお考えの行政・地域団体など各種事業者のみならず、お気軽にお問い合わせください。



事例 : no. 003  
YAOLA (やおら)  
in 河内音頭まつり

八尾のものづくり・風土・人を見つめなおすプロジェクト「YAOLA (やおら)」をスタートしました。9月8日(日)、久宝寺緑地で実施された河内音頭まつりに YAOLA ブースを出展。ものづくり製品の展示&販売や廃材を利用したワークショップを実施。来場者からは、「これ見たことあるけど、八尾で作られてたんや」など、あらためて八尾の魅力を感じて頂きました。

□ <http://yaola.jp>



事例 : no. 004  
ハッピーアースデイ大阪 2013 秋の  
実行委員活動

10/19 (土)、/20 (日)、久宝寺緑地にてハッピーアースデイ大阪 2013 秋を開催しました。私たちが実行委員として参画。当日は悪天候にもかかわらず二日間で 3,000 人の来場者を記録。今回も地元、八尾市を中心に多数の企業さまに協賛頂き、運営することが出来ました。

□ [www.happy-earthday-osaka.jp](http://www.happy-earthday-osaka.jp)

リレー  
コラム

## 私たちと、八尾の街。

「アクトランドYAOがあってよかった」って、言われるような地域の財産になりたい。



八尾市から委託管理を任されているNPO法人NACの宮嶋啓太さんは、アクトランドYAOでの活動について答えてくれました。

「野外活動や自然体験を通して、子どもたちの健全育成に貢献していきたいです。幼稚園児や小学生を対象にした年間体験プログラムは、おかげさまで定員を超えるほどの人気です。このプログラムに参加した子どもの保護者の方から、『想像力や表現力が豊かになった。』『異なる学年の子どもとの活動を通して、コミュニケーション力がついた。』というような声を頂いています。アクトランドYAOでは、学生ボランティア活動も受け入れています。幼稚園の先生を目指している学生が、初めは虫も触れなかったけれど、経験を積むに従って、今では、『将来、園児の前で触って見せて、自然と触れあう大切さを教えたい。』と言うようになりました。そんな成長を見るとやっぱり嬉しいですね。

この南高安地域や八尾の人々に、アクトランドYAOがここにあって良かったと思って頂ける、そんな地域の財産になるような場所にしていきたいという思いで日々活動しています。」  
宮嶋さんは今日子どもたちの笑顔に困れながら、今の時代に無くなりつつある自然との触れ合いの大切さを伝える活動を行っている。

取材協力：アクトランドYAO (NPO 法人 NAC) 宮嶋 啓太さん アクトランドYAO : <http://www.actland-yao.jp>



## いっしょにつくる、八尾想いプロジェクト。 私たちとあなたも始めてみませんか？

このプロジェクトは、私どもの本業を通じた「社会への還元」を行う活動として実施します。このプロジェクトに共感いただき、ご発注いただいたお仕事で得る、売上金の一部を「八尾を想うプロジェクト」へ支援金として還元する取組みです。

『地域を元気にする活動に参加したい』

もしその様なことをお考えであれば、私たちとまずは始めてみませんか？

プロジェクトの詳細はこちらから <http://www.seeds-c.co.jp/campaign/yaomoi/>

※問合せ

CSR室(直通) **06-4801-8200** 平日 11:00-17:00 (土日祝を除く)

NEWS

ファミリーロード(八尾市商業協同組合)様より、ハッピーアースデイ大阪、NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会の両団体へ支援いただきました。  
ファミリーロードHP: <http://www.family-r.com/>

PROJEC  
001

ハッピーアースデイ大阪2014春(3月予定)でのリユース食器レンタル費へ「八尾想いプロジェクト」で発生した売上金から3%を支援!

PROJEC  
002

ニッポンバラタナゴ保護池の保全活動(保護池の清掃活動他)費へ「八尾想いプロジェクト」で発生した売上金から3%を支援!